



# 阪神淡路20年 —1.17は忘れない—

阪神・淡路大震災20周年事業記録誌



ひょうご安全の日推進県民会議



# はじめに

阪神・淡路大震災から20年。内外からの多くのご支援と県民の皆様の懸命のご努力により、創造的復興に取り組んできました。

しかし、被害を受けたまちや生活を再建するだけで終わるわけにはいきません。同じ悲しみや苦しみを繰り返さないためにも、震災の経験と教訓をしっかりと継承・発信し、これからの社会づくりに生かしていくことが重要です。



震災後も毎年のように、全国各地で大規模な災害が発生しています。昨年は、丹波市や広島市で甚大な被害をもたらした8月豪雨災害をはじめ、9月の御嶽山の噴火、11月長野県北部地震などの自然災害が猛威を振るいました。近い将来、南海トラフ巨大地震が高い確率で発生することが危惧されています。

このため、住宅の耐震化などの地震対策、防潮堤の強化など津波防災インフラ対策、地域防災力の強化などハード・ソフトにわたる防災対策を総合的に進めていきます。

また、時間の経過とともに、震災の経験や記憶が風化することが懸念されています。被災地でも半数近くの人が震災を経験していない状況となっています。

兵庫県では、震災の経験と教訓を強く発信するため、この1年間、「1.17は忘れないー『伝える』『備える』『活かす』ー」をテーマに、「阪神淡路20年」の事業を展開してきました。

1月17日の「ひょうご安全の日」には、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、「1.17のつどいー阪神・淡路大震災20年追悼式典ー」を開催したほか、メモリアルウォークや防災訓練等に1万3千人を超える方々が参加されました。

また、防災専門家と協働した実戦的防災訓練の実施や毎月17日の「減災活動の日」における活動の実践等を啓発する県民総参加の「減災」キャンペーンの展開をはじめ、兵庫・神戸に立地する国際関係機関等による国際フォーラム、地域コミュニティレベルでの防災学習会の開催など、県民・地域団体・民間グループ等の各種主体による関連事業も合わせて1,000件を超える事業が実施されました。「ぼうさい甲子園」では創設10周年を迎え、これまでの成果や未来に向けたメッセージを発信するとともに、次代を担う子どもたちが熱意と創意工夫にあふれた活動事例を数多く報告してくれました。

地域や世代を越えて、防災・減災の取り組みが広がっています。

21年以降もこうした取り組みや経験を蓄積しながら、継続していくことが大切です。

この「阪神淡路20年ー1.17は忘れないー 阪神・淡路大震災20周年事業記録誌」を多くの皆さんにご覧いただき、家庭や地域、職場などあらゆる場面において、一人ひとりが防災について考え、行動する災害文化が定着していくことを願っています。

「1.17は忘れない」。この言葉を胸に刻み、誰もが安全で安心して暮らすことができる減災社会の実現に向けて、ともに取り組んでいきましょう。

兵庫県知事 井戸敏三